

北海道幕別清陵高等学校 校章・スクールカラーについて

『校訓をイメージしたエンブレム型の校章とする』

『翡翠（ひすい）色をスクールカラーとする』

＜エンブレム型を採用した理由＞

従来のマーク型の場合、学生帽の帽章や制服（詰め襟・従来型的女子制服）の襟章として使用する事を想定しているが、現在は学生帽を着用することはなく、制服もブレザー型が主流のため、校章として認識される場面は校旗以外では数少ない。

近年特に私立高校等で採用されているエンブレム型だと、胸に輝いており生徒及び教職員が学校のシンボルである校章を日常的に意識できることになる。又、ネクタイ・リボンにも使用しているスクールカラー（翡翠色）と共に、対外的にも学校のイメージとして浸透しやすくなる。

さらには、力を入れていく部活動のジャージやユニフォームにもエンブレム型の方が使用しやすく、複数の部活動等で使用することにより統一感も生まれ学校のイメージアップに繋がる。

＜校章のデザインとスクールカラーに込めた思い＞

1 校訓である【考・拓・愛】とその象徴（育てる生徒像）を表現

◎ カワセミ＝【考】＝育てる生徒像の象徴

「清流の宝石」と呼ばれ十勝にも飛来する「カワセミ」は、漢字ではスクールカラーである「翡翠」と書く。木の枝から水中をしっかりと観察し、素早く獲物を捉えることから「King fisher」（魚取りの王様）ともいわれている。自分やものごとを一段高いところから客観的に見つめ直し（カワセミの目＝メタ認知）自分自身やものごとを主体的に考えることができる力、つまり校訓の【考】を表現した。また、育てる生徒像の象徴として「カワセミ」を中心におくと共に、王様の冠を上部にデザインした。

◎ 稲穂＝【拓】

学校の所在地である「依田」は十勝開拓の父である依田勉三氏にちなんでつけられた地名であり、勉三が挑戦した多くの事業の中で唯一成功したといわれているのが水田である。そのフロンティアスピリットを受け継ぎ逞しく未来を切り開く力、つまり校訓の【拓】を実りの象徴である稲穂を両側にデザインすることで表現した。

◎ 柏の葉＝【愛】

カワセミの後ろにデザインされた幕別町の木である柏は、秋に枯れた葉が冬季の強風を防ぎ、春に新芽が出るまでは落葉しない特性から「代が途切れない」縁起物とされている。また、花言葉は「愛は永遠に」であることから、町内の柏の木をバックに映画「愛よ星と共に」のロケが行われた事は有名である。地域への誇りと愛着を持ち、地域の未来を担う力、つまり校訓の【愛】を表現するのに相応しい。

2 地域・江陵高校・幕別高校の三者の思いが一つになった高校であること表現

三者の思いを柏の葉を三葉にすることで表現した。

3 スクールカラーを翡翠色とし校章に使用

江陵高校のスクールカラーである「緑」と、清陵高校の清「青」を合わせた青緑色の中から最も美しい「翡翠」色を選んだ。翡翠は 2016 年日本の国石に認定された我が国を代表する石でもある。江陵の伝統を礎に清陵が新たな歴史を刻んでいくイメージを、十勝の大地（緑）と大空（青）に重ねると共に、目指す生徒像の象徴、カワセミの羽の色でもある「翡翠」をスクールカラーとし使用した。